

令和2年10月22日

地区連合町内会会長 各位

港北区福祉保健課
港北区社会福祉協議会

第4期計画に掲載する地区活動の確認依頼について

日頃より「ひっとプラン港北」の推進にご尽力いただきありがとうございます。

第4期「ひっとプラン港北」区計画に地域活動事例として各地区の活動を紹介させていただきます。今後それぞれの活動の主催者に原稿及び写真の確認をお願いしますので、ご承知おき願います。

なお、地区活動は地区ごとのバランスを考慮して選出しています。

港北区福祉保健課 秋山、佐々木、中嶋
045-540-2360

港北区社会福祉協議会 梶山、大川、渡辺
045-547-2324

第4期「ひととプラン港北」掲載予定の地区活動について

掲載箇所	地区活動掲載（予定）内容
取組の工夫	子ども×大学生×地域 みんなで力をあわせてオンライン学習会～師岡こども学習会～
取組の工夫	暮らしを支えるボランティア「ほっと新吉田」
ひろがる1	いろんな方に活動を知ってもらおう樽町「情報部会」
ひろがる1	城郷「つながりプロジェクト」地域や活動団体のゆるやかな繋がりづくり
ひろがる2	綱島を子どもたちの「ふるさと」に ～子育て支援ネットワーク会議～
ひろがる2	「子育てサロンよしだっこ」
つながる1	みんなが集える身近な居場所「もろおか里山倶楽部」
つながる1	みどりの輪！きたにっば
つながる2	個別支援級の子どもの放課後の居場所「とも・とも篠原」
つながる2	個別支援級の子どもの放課後の居場所「しろさと地区放課後プラザ」
つながる3	ひとりじゃ つまらん ともだちつくろう！ ～新吉田健康づくり部会の取組～
つながる3	新羽地区ひととプラン健康づくり月例ウォーキング
とどく1	大曽根地区見守りのための情報交換「ささえあいネットワーク」
とどく1	ご近所同士の支え合い「太尾ふれあいクラブ」
とどく1	ご自宅に近い場所で参加できます！篠原地区「ミニデイサービス」
とどく1	高齢者の徘徊発見支え合いネットワークあすなろ地区「さがしてネット」
とどく2	防災から福祉を考える！日吉地区「災害時要援護者の見守り」
とどく2	いざという時にも安心！菊名「生活安全安心メモ」
3期の特徴	子どもも大人もつながる居場所「高田コミュニティカフェゆずの樹」
3期の特徴	みんなでカレーを食べよう樽町「なごみ食堂」

※地区のバランスを考慮して選出しています。

※掲載にあたっては、今後、活動の主催者に打診します。（状況によって変更もあります）



To the future of Kohoku アンケートから見えるもの

地域のつながりの重要性が改めて浮き彫りになった！

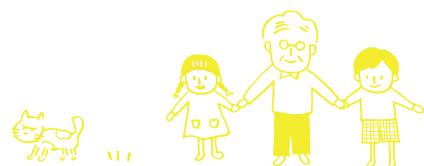
「立ち話、近所、公園などでの交流、挨拶が頻繁になった」など対面でのつながりによる安心感についての回答が多く、コロナ禍での生活が地域のつながりの重要性を再認識する機会となっていることが伺えました。

地域行事、イベントへの期待感が地域活動参加の糸口に！

地域のイベントが無くなってさびしい、困っているとの声が多く、地域のつながりづくりとして地域活動が担ってきた役割の大きさが改めて感じられました。
地域活動は40歳代から関わっていく傾向があります。今回の結果からはまだ地域活動に参加していない30歳代の地域活動への関心の高さがみられました。関心ある活動としては「地域行事、催事、イベントなど」が挙がっています。

オンラインなど新たなツールによる繋がり可能性はこれから！

オンラインによってつながる経験は多くの方が持っていましたが、分析の結果オンラインの利用はご近所の付き合いの深さに影響を与えてはいませんでした。
今回のアンケートについては40日間で約400通の回答結果を得ることができました。年齢別でも60歳、70歳代の回答者が2割を占め、今後の地域活動にオンラインを活用していく可能性が示されました。



Around40 メンバー紹介

概ね40歳代「Around40(アラウンドフォーティ)」の方々と意見交換を実施、調査の企画にご協力いただきました。

飯塚 知世(社会保険労務士・ヨーヨーパフォーマー)／ 酒井 洋輔(株式会社・代表取締役)／
澁澤 真由美(介護職員・居場所づくり演なかま)／ 西川 綾奈(会社員・大倉山ミエル利用者)
松村 英夫(有限会社・代表取締役)／ 匿名希望(多胎児の会メンバー)

<上記メンバー推薦者としてオブザーバー参加>

加藤 真太郎(株式会社・代表取締役)／ 鈴木 智香子(大倉山ミエル代表)／ 平野 ちあき(おはなしキラキラぼっけ)

制作協力

分析協力：井上 絵理(慶大大学院博士課程)
デザイン・イラストレーション：戸原 貴子(creative works Tane't)

企画運営：認定NPO法人びーのびーの地域remix 主催：港北区福祉保健課／港北区社会福祉協議会

KOHOKU

「ひっとプラン港北」策定に関する 地域活動調査結果



港北区では「誰もが安心して健やかに暮らせるまち 港北」を目指し、身近な地域の助けあい、支えあいを進めるため、港北区地域福祉保健計画「ひっとプラン港北」を策定、推進しています。
現在第4期計画(令和3年度～7年度)を策定していますが、新型コロナウイルスにより地域のつながりや活動が大きな影響を受けたため、地域活動の現況やまちとのつながりについて調査を行いました。

アンケート調査概要

調査期間：令和2(2020)年6月15日～7月26日
回答総数：362通
調査手法：インターネットによる調査

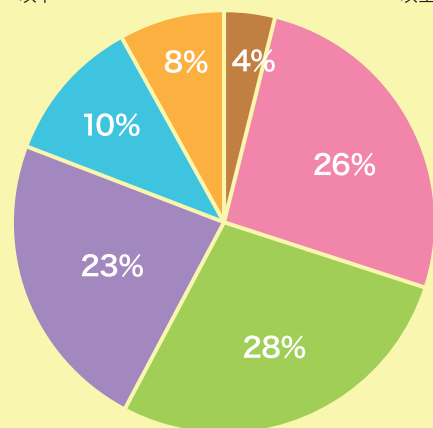
内容抜粋

地域活動を行っていますか？／コロナ禍の活動についてどのような工夫をされていますか？
困っていることはありますか？／今後、興味・関心がある活動はありますか？／
新しい生活様式が始まり、近隣との付き合いが良かったことや困ったことはありますか？／
新型コロナの影響下でも人とのつながりを持つために、遠隔(オンライン)での交流を行いましたか？



回答者（年代別）

20歳代以下 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 70歳代以上

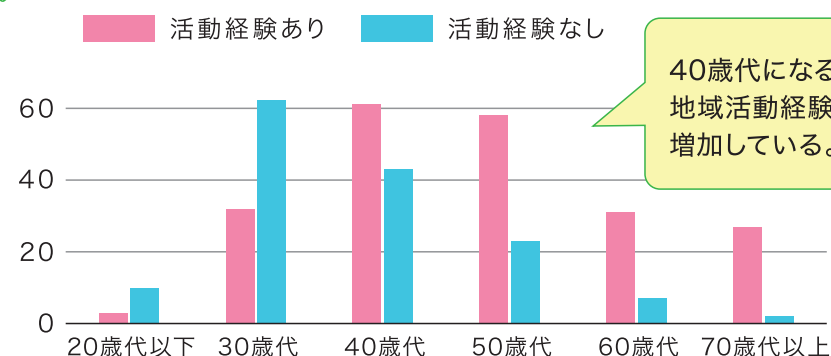


30～50歳代が回答者全体の約77%を占めている。



#01

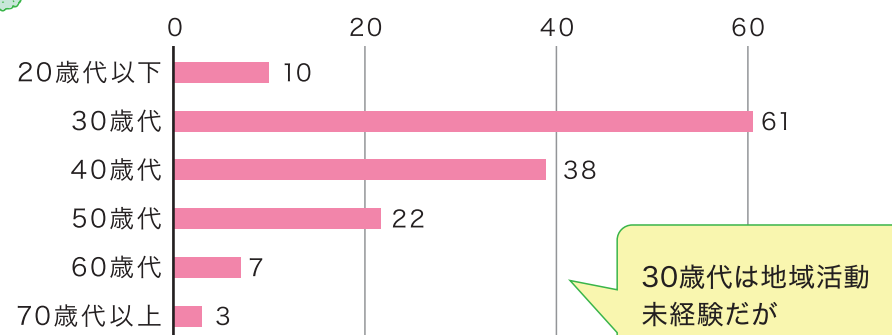
年代別 地域活動経験



40歳代になると地域活動経験者が増加している。

#02

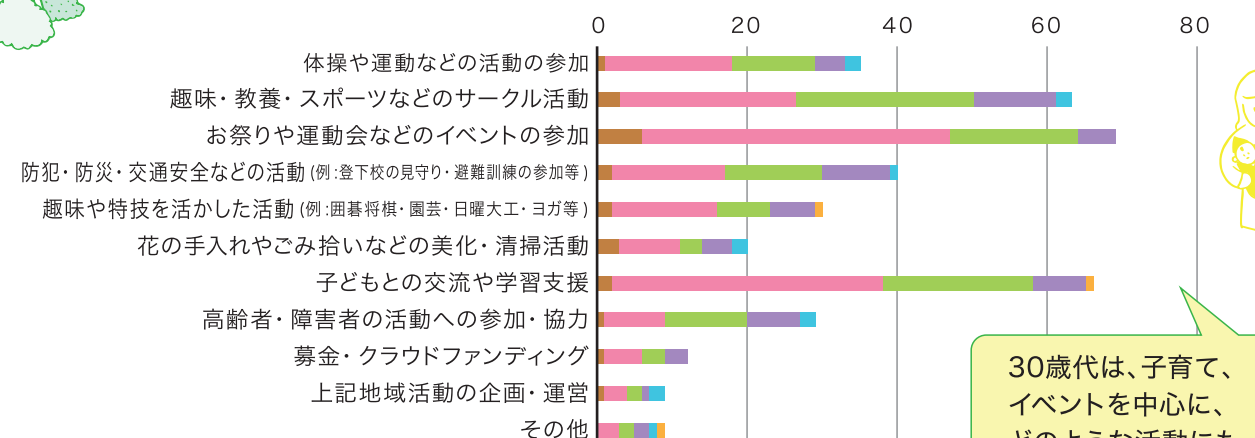
年代別 活動関心あり



30歳代は地域活動未経験だが関心はある方が多い。

#03

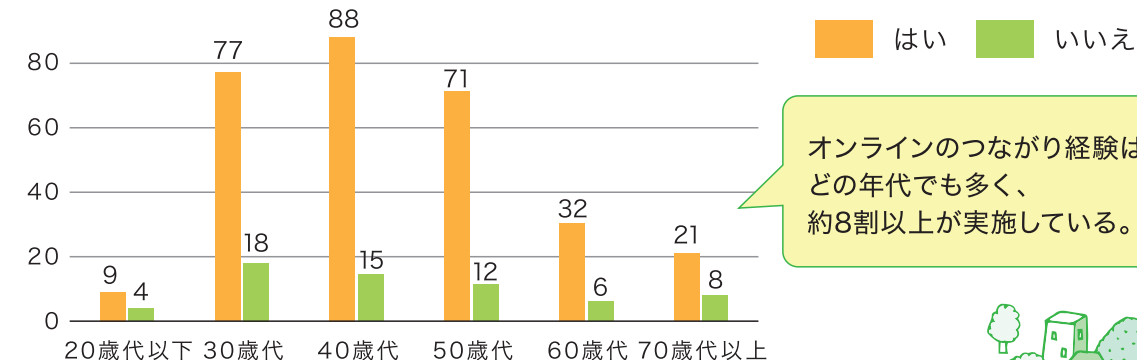
年代別 関心のある活動



30歳代は、子育て、イベントを中心に、どのような活動にも関心を高く持っている。

#04

年代別 オンラインのつながり経験



オンラインのつながり経験はどの年代でも多く、約8割以上が実施している。

寄せられた回答からの抜粋

地域活動への想い

- 活動が中止になって、そもそも本当に必要な活動は何なのかを考える機会になった。
- こんなときこそ支援が必要だと思うが、自分の家族を考えると何を優先したら良いのか迷う。
- 3密などにどこまで対応していいかわからない、予算もかかる、もう疲れた。

地域のつながり

- コロナ禍で一時預かりが閉鎖になって困っているとき、近所の方が快く預かってくれた。お互い助け合える関係があるのはとても心強いと改めて感じた。
- 地域の知っている人だと、ある程度行動が分かるので会って話しても怖くない。
- 転居したばかりで近隣の人は知らないまま、自治会等の活動が中止になったり、あまり近隣の方と交流がない。
- どの程度の距離感で近隣の人とお付き合いしていいかわからない。個人的には挨拶する程度で十分。でもお困りの方がいたら助けたいと思う。

活動への影響

- オンラインイベントという時点でしり込みしてしまうスタッフが多く、アクティブメンバーに負荷が集中する。
- これまでの活動が（停止ではなく）なくなった。
- 遠方の人や産後間もない人も会合に参加できるオンラインのメリットを感じた。

活動の工夫

- 役員向けのHPの立ち上げ、LINEによるテレビ会議開催。
- 電話やメールを通じて互いの不安や今の気持ちを話すよう声掛けしています。

高齢者障がい者子ども

- 同じ集合住宅の高齢者世帯に訪問回数を上げて、買い物のお手伝いや電子機器操作を教えた。
- 高齢者こそIT支援が必要と実感。
- 視覚障害や聴覚障害の方にとっては、新たなバリアーにつながります。
- 小さい子との暮らしは苦労した。
- ストレスがたまるようなので若い世代の親が追い詰められないよう配慮をしようになった。

ほっとしたこと良かったこと

- かえって笑顔で「頑張ろうね」などと会話できる。
- 以前から付き合いのある近所と子育ての悩みの話が気分転換になった。
- 在宅勤務が増えて平日の様子がわかるようになった。
- 以前より自分の街と感じるようになった。